

銀漢亭日録

伊藤伊那男



1月25日(木)▼八時、「順天堂大学病院」。採血は外套を脱ぐ間も無いほど空いている。CT検査も予約前に呼ばれる。造影剤の注射は痛い。一回失敗。九時過には終了。天気もよし、湯島天満宮へ散策。梅三分咲。合格甘酒を朝食替り。歩いて上野。五條天神社にお札参り。湯島も五條も今日は鶯替の行列あり。行列の人と話す。早朝から亀戸湯島五條と巡っていると。国立科学博物館の特別展「和食く日本の自然、人々の知恵」を見る。さすがに途中で疲れ、三十分ほど休憩。十四時、池之端の蕎麦屋「蓮玉庵」に久々入り、三段重ねの昼食。神保町に出て、短冊などを購入。「天為」発行所に寄り、編集部の方々に挨拶。今日は一万七千歩歩く。少々疲れ、早々に寝る。

26日(金)▼「三丁目の夕日」の「昭和歳時記」三月号のエッセイ書く(細見綾子句)。「俳句四季」五月号の「俳句の由来」書く。年末に気仙沼の「ヤマヨ水産」に頼んでおいた牡蠣四キロがや々と到来。ノロウイルスで出荷できなかった。

27日(土)▼「銀漢新年俳句大会」用の短冊を染筆。後々の分まで入れて二十枚ほど。手が空いたので「三丁目の夕日」昭和歳時記(四月号(角川源義句)を書く。数句会の選句。生牡蠣、ケチャップとレモン、ニンニクのカクテルソース。梶木鮪の味噌漬(自家製)。

28日(日)▼昼前、「アルカディア市ヶ谷 私学太極館」。「銀漢俳句会年次総会・新年俳句大会」。九十人ほどが集まって下さる。気仙沼の一砂、長崎の晴子、大阪の佳壽美、凌雲、婿恋村のちづ子、宇内、名古屋の美州、宏行さん等、遠方からも。新年会の席には、

皆川丈人、文弘さんも。途中、映画監督の北村皆雄氏が突然来られ、私に花束を贈呈して下さい。皆さんに快復した姿を見て戴くことができ、感激の一日。

29日(月)▼十一時半、川越駅。「草樹」の河瀬代表、小山徳夫顧問の迎えを受く。駅ビルで蕎麦の昼食を戴く。五年振りの新年俳句大会と。九十人ほどが集合しておられる。井上井月についての講演、一時間。当日句の選句など。宴席は辞退して帰宅。

30日(火)▼「順天堂大学病院」外来。齋浦先生と面談。二十五日のCT検査の結果は転移無し。血液検査の結果も順調と。有難し。抗癌剤は引き続き服用。新宿に出て、西口の「渡邊」で天せいの昼食。ブックオフ、成城の古書店を巡り帰宅。生牡蠣でコロナビール。セロリの豆鼓炒め。今夜から抗癌剤四回目の服用へ。

31日(水)▼抗癌剤服用に入るとやはり微妙に気怠さや眠気などがあろうだ。終日、集中力を保てず。セロリのオイスターソース炒め、カリフラワー。

2月1日(木)▼昼、東京国立博物館の特別展「本阿弥光悦の大字宙」を見学。二時間ほど巡り、疲れる。家族はスキーへ。

2日(金)▼天気が悪いせいもあるが、終日、気怠く寝て過ごす。

3日(土)▼天気回復。数句会の選句。辻隆夫句集「梅日和」の最終校正。「NHK俳句」「俳句界」から依頼のエッセイ構想。豆撒き。

4日(日)▼若干ぼんやり。朝、大根おろしとじゃこ、味噌汁、海苔とご飯。昼、とろろ蕎麦。夜、伊那から到来の鯉のうま煮。スナックさや、独活のきんぴら、粕汁。

5日(月)▼雪、降り止まず。悪寒あり、三十八度六分。終日、家で臥す。食欲無く、林檎少々。

6日(火)▼平熱に戻る。朝食摂る。十八時、京橋の「明治屋」で高部務氏と待ち合わせ。「鮪 藤山」へ。見事な鮪。私が酒好きと知って「十四代」の封を切ってくれる。小さなグラスで一杯。去年の九月以来酒をほとんど断っていたが、「うまい！」と感じる。そろそろ酒は解禁かな。

7日(水)▼「銀漢」三月号の校正済ませ、武田編集長へ返送。「春星句会」の選句。とろろ蕎麦、秩父から到来の豚の味噌漬。

8日(木)▼朝、豚汁、飯一椀。昼、京都着。駅ビル内の「葵」で九条葱うどん。龍谷ミュージアムの特集展示「仏教の思想と文化」を見る。散策後、「京極スタンド」で粕汁、さずし(しめ鯖)、酒は一杯だけ。あちこち飲み歩いたのは昔日の事。十九時前には、「京都糸屋ホテル」に入る。

9日(金)▼六時起床、昨日、錦市場で買った鯖鮓、鰻鮓を一切ずつの朝食。「本部句会」投句。「大丸 京都店」の地下にて、京のそうざいを色々買う。今夜の娘達の酒盛り用。十三時、「わらじや」に桃子、杏子と待合せ。今日から二泊三日親子三人で遊山。「ホテル間堂、方広寺大仏殿跡、国家安康の鐘と、近場を見学し、「ホテリハーヴェスト京都鷹峯」に入る。比叡山の見えるファミリータイプの部屋。持参の惣菜でだらだと歓談。二人共酒飲み。

10日(土)▼五時半起床。日記、エッセイ手直しなど。夜明けの比叡山を見る。ここは温泉あり。昨夕、夜、朝また朝と。光悦寺を見て町に出る。「錦市場」散策。「八坂神社」経由で妻分骨の「大谷祖廟」。実家の牧野家の墓参。折しも春の時雨。十六時、室町の川村悦子さん(妻の従兄弟、画家)を訪ねる。桜餅とお薄のもてなし。和田ちゃんも来て五人となり、「御所南 かまた」。大将も昨年心臓病で倒れ、三ヶ月休業した由。料理佳品揃い。二十一時

半、糸屋ホテル投宿。

11日(日)▼桃子と「高木珈琲店」で朝食。十一時、真如堂へ金戒光明寺へ平安神宮。十三時、聖護院の「河道屋 養老」の養老鍋。和田ちゃん、悦子さんも来て五人で昨夜の続き。二十時前帰宅。親子三人の旅は無事終了。

12日(月)▼留守中の雑務。数句会の選句。娘二人を連れての京都案内は少し張り切り過ぎたか。一日休養。

13日(火)▼今朝までで抗癌剤四回目の服用終了。「銀漢」四月号のエッセイなど執筆。「俳句界」のエッセイ、春筍を題材に執筆。

14日(水)▼元野村證券社員で店の客であった川畑保(呆人)さんが北辰社から句集「古希の旅人」を出版。お祝いの便りを出す。

15日(木)▼「NHK俳句」五月号「語ろう! 俳句」に句会の効用についてのエッセイ。二千五百字はなかなかキツイ。仕上げた後、詳細を見ると「ですます体」の指定あり。書き直す。何とも……。

17日(土)▼昨日入手の鹿兒島産の春筍を茹でて焼く。山椒味噌、山椒醤油を作り、仕上げる。小さな木の芽が六枚で二五八円! は口惜しいが……。娘に写真撮ってもらい「俳句界」五月号の「春の季語」の特集に送る。千四百字の春筍についてのエッセイも投函。昼、到来の獨逸パン旨い。

18日(日)▼「銀漢」四月号の選句に入る。愛媛から到来の伊予柑が身体に合うのか、このところ毎日食す。

20日(火)▼「銀漢」四月号の選句続く。八戸から到来のせんべい汁。夜から五回目の抗癌剤服用に入る。

21日(水)▼十二時、発行所。北辰社の今後について打合せ。武田、杉阪、椋原、川島、多田さん。あと大野田さんと「井月忌の集い 俳句大会」他の打合せ。